

浜松市教育研究会 事務研究部 第3回研修会報告

令和7年10月29日

1 部会



◎顧問校長あいさつ 西部中学校 鵜飼和生 校長

「横のつながり」を深めて、直面する課題へ対応していく大切さについてお話いただきました。生成AIの活用を例に「業務の効率化が図られる一方、セキュリティ面やハルシネーション（もらしい誤情報）への対応等、今までになかった新しい課題への対応が必要な時代。一人で悩みを抱えず、ベテラン・若手を問わず支え合うことが大切。連携＝横のつながりを深め、課題を乗り越えていってほしい。」と激励のお言葉をいただきました。



◎グループ協議「校務DXと学校事務職員の業務について」



今年から導入された新システム“T-port”を軸に、校務DXについてグループ協議・発表を行いました。各グループからは「起案や文書受付等、業務の在り方について今後も検討が必要」「ペーパーレスを進めることが大切」「保護者へのお知らせは必要に応じて紙媒体にする」「業務毎の使い分けについて中学校区で調整を行うことで、より円滑な学校運営がされるのではないかな」等の意見が出されました。社会の変化に対応し、学校運営に寄与するため、各校1名程度で業務にあたる学校事務職員が連携し課題に向き合う、有意義な時間となりました。

2 部会



◎浜松市出前講座 「広報誌のできるまで」 広聴広報課 広報グループ長 平賀武美 様

「広報誌のできるまで」という講座冊子と、実際に配布している「広報はままつ」を用いながら、事前に提出した質問事項を交えて御講話いただきました。

- ・ 広報誌は6人で作成している
- ・ 前年度中に次年度の計画を立てその計画を基に作成を進めている
- ・ 間違った情報を載せないよう校正は多くの人数で2回行っている



・ 視覚的に分かりやすくするために写真やイラスト・グラフなどを多用している

・ 浜松市に住んでいる人みんなが情報を知ることができるようポルトガル語・英語・やさしい日本語・点字・音声版などの様々なものを作成している等をお話いただきました。



聴講する中で、私たちも職場において資料を提示する際には、文字ばかりにならないようにイラスト等を入れたり、誰にでも分かるような表現にしたりし、伝えたいことがより伝わるように工夫をしていく必要があると感じました。

◎会計について 富塚中学校 木根創 専門監

学校諸会計等検討委員会アンケートの集計と考察について説明がありました。特に、学年費等からの業者への支払いは現金から振込へ移行させていくこと、振込に際しては民法に記載の「振込手数料は債務者負担」に則り、支払い時の振込手数料を学校が負担していくこと、それに伴い今後は予算の段階で手数料分を計上していくこと、万が一金融機関が破綻した場合に備え、通帳を決済用預金に移行していく方が望ましいこと等の内容が伝えられました。

3 部会



◎Google アプリを使ってみよう



Chromebook を使い、クラウド上での自動保存やリアルタイム共同編集など Google の特徴を確認しました。Google ドキュメントの紹介では身近な具体例を用意することで、興味関心を高め、挑戦意欲向上につながりました。また、Google フォームで備品点検結果報告を作成しました。1 つずつ順を追って質問を作成し、全員が完成できました。

◎校務改善アイデアソン

アイデアソンとは、アイデアとマラソンを組み合わせた造語で、短時間で多くのアイデアを出し合う活動です。グループごとに「解決したいアナログ校務」をテーマにアイデアソンを行いました。「施設修繕の進捗状況」をスプレッドシートで作成する案や「日程調整」で Google カレンダーを活用する案、「校内安全点検」をフォームで集計する案が出されました。他グループの工夫や多様な改善アイデアに触れ、スプレッドシートの共同編集機能で同時にフィードバックをしたのも新しい経験でした。

デジタルや Google アプリの利便性や効率性を改めて感じるとともに、アナログの良さや人とのつながりの大切さにも気づくことができました。



4 部会



◎顧問校長講話 積志小学校 河合信寿 校長

校長先生は、国立教育政策研究所の藤原文雄氏との対話から、学校経営における学校事務職員の3つの重要性について認識されているそうです。具体的には「予算の適正執行」「校長と学校事務職員の思いの共有」「事務センターを主体とした学校事務全体の資質の向上」です。学校事務職員は校長の片腕のような存在であるため、管理職と対話をし、力を合わせて学校経営を進めてほしいとのお話がありました。



◎浜松市出前講座 「生活保護制度」



生活福祉第一課 東生活福祉グループ長 和田真則 様

生活保護制度の基本的な仕組みについて学びました。制度には、「国民の健康で文化的な“最低限度の生活”を保障する」という目的があること、保護費の種類や申請から決定までの流れなどを詳しく教えていただきました。申請から14日以内に決定通知を発行するという、迅速な対応が必要なことに驚きました。質疑には、具体的な事例を踏まえ、丁寧にお答えいただき、制度の目的や内容をより深く学ぶことができました。

5 部会



◎浜松市出前講座 「国民健康保険について」



国保年金課 資格給付グループ長 水谷篤史 様

市民に向けた資料「浜松市 国保のしおり」に沿って制度の説明をしていただきました。保険料の計算方法についても、例をもとに詳しく教えていただきました。

校内の職員から質問を受けたときは、今回の講座で教えていただいた制度内容や計算方法を生かして、助言できるようにしていきたいです。

◎グループ協議

国民健康保険の講座を受けて、分からないことや「さらに知りたい」と思うことについて、グループ協議を行いました。協議の中で出された疑問は、集約して国保年金課に提出しました。

教職員の任用形態が多様化し、加入する社会保険もそれぞれ異なって複雑になってきています。必要な手続きについて、的確な情報を提供できるように、改めて校内職員の状況について確認しておくことが大切であると感じました。



6 部会



テーマ：災害時、学校事務職員としてできること ～危機管理意識を高めよう～

災害発生時に、学校事務職員としてどのような役割を担うことができるかについて、実際の事例や危機管理マニュアルを手掛かりとして考えました。

◎報告「カムチャツカ半島付近地震発生時の対応について」 舞阪小学校 宮崎 友貴

7月に起きたカムチャツカ半島付近地震の際に、避難指示を受けて対応したことについて、報告がありました。130人を超える避難者を受け入れるため、職員で分担して誘導や備蓄水の配付などにあたったことや、1階にある書類や貴重品を上階へ移動したという報告がありました。当日の職員全体や学校事務職員としての動きについて、また、実際に対応した中で考えたことや課題として感じたことを聞くことができ、とても参考になりました。



◎グループ協議

「災害時に、学校事務職員としてどのように行動しなければならないか考えよう」



危機管理マニュアルを見ながら、災害が起きた時の学校事務職員の役割や行動について、また、日頃から備えておいた方がよいことについて確認し合いました。さらに、この地区ならではの災害への備えや取るべき行動について話し合いました。持ち出し品や備蓄品などの確認をし、使える状態にしておくこと、危険エリアについて確認しておくこと、また、学校事務職員も避難訓練に参加したらよいのではないか等、

たくさんの意見が挙がり、活発な話し合いになりました。

7 部会



◎顧問校長講話 豊岡小学校 泉澤伸広 校長

「学校監査（現地調査）の報告書を読ませてもらった。監査の指摘内容について各学校でも話題に出し、管理マニュアル等再度確認して欲しい。」と御指導いただきました。

また、「つかさどる事務」について、「管理職はどのように捉えて学校事務職員と話をしていくのかを部会内の校長にも話をしていきたいこと、今回の研修テーマである『整理収納』については、児童がよく校長室を来訪するため、机上は何もないようにしている。また、保管文書やデータ管理など保存年月が過ぎたものは廃棄する等、整理整頓することが次の仕事に繋がり、業務の改善につながる。」とお話をいただきました。

◎公立学校共済組合 「職場の健康づくり支援事業」

「職員室の整理収納 環境を整える」～自分の机から片付けてみよう～

整理収納アドバイザーⅠ級 中田香苗 様



講話では、整理整頓と整理収納の違いや整理収納後の維持管理の方法等具体例を提示されながら、「整理収納で大事なことは気づくこと。そのうえで整理収納を行うと業務の効率が上がり、働き方改革につながる。」とお話をいただきました。

その後のグループワークでは、「職員室等の現状把握」「整理収納を生かした改善アイデア」「整理収納術を働き方改革に活用する」の3つのテーマを基に活発な意見交換が行われました。グループワークをすることで情報を伝え合い、改善点等についても共有が出来ました。今後の業務につなげていきたいと思います。



8 部会



◎浜松市出前講座 「第4次浜松市教育総合計画について」 教育総務課 小杉弘 様



第4次浜松市教育総合計画について御説明いただき、「学校教育には学校事務職員の存在が不可欠であること」「この計画は学校事務職員にとっても日々の仕事とつながっていること」等のお話をいただきました。

グループワークでは、計画の中から児童生徒・教職員にとっての主体性について話し合い(対話)をしました。対話によって主体的な姿の具体を積み上げ、共有、実践していくことが、学

校教育全体の推進力になると御説明いただきました。

講座の終わりには、「『学校』事務職員だからこそ、事務の専門性を活かしつつ、教職員、子ども、保護者と積極的にかかわってほしい」とお言葉をいただきました。

◎情報交換

運用が始まった備品 5 Go についての所感や、日々の業務の困り感などについて情報交換をしました。

特に備品システムについては、別で返納伺書等の書類を作る手間がある、分類(登録)がわかりにくい、学校のタブレットでは QR コードがうまく読み込めない時があるなど、実際に処理をしてみないとわからない操作や注意点多くありました。互いに情報共有することで、今後の業務の参考になりました。

